



みんながつながり 夢が育つ学校に

国立二小だより

平成31年3月1日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

「感謝」の気持ちがあふれる国立二小の春

校長 小林 理人

「ありがとう♪ さよなら 6年生♪」 音楽室から心温まる優しい歌声が聞こえてきます。校庭に目を向けると、土壇横の紅白の梅も咲き始め、巣立ちの春の訪れを感じます。

少し前の話になりますが、2月9日（土）に行われた国立市公立小学校ミニバスケットボール大会で、男子チームが見事に準優勝を勝ち取りました。昨年12月に6年生の有志が集まりチームを結成し、朝と放課後を中心に練習を積み重ねてきました。チームのメンバーだけでなく、応援してくれた友達、指導にあたった教員等、みんなの力で掴んだ価値ある準優勝です。

翌週の全校朝会で、全校の子供たちにキャプテンが準優勝の報告をしました。その際、男子のリーダーは、「応援をしてくれた友達や指導をしてくださった先生方に感謝します。」と締めくくりました。そして、女子のキャプテンは「結果を残すことができませんでしたが、みんなで一生涯懸命に頑張ったことに悔いはありません。」とやり遂げた達成感を言葉にしました。

また、同じ9日（土）に東京都庁で東京都教育委員会児童・生徒表彰の授賞式があり、本校の金管バンドの代表が出席しました。そして、報告を次のようにしました。

「みんなで仲良く活動できる金管バンドが表彰されてうれしいです。二小のみんなや地域の皆様にも音楽の楽しさを伝えていけるような金管バンドにしていきたいです。」

金管バンド結成10年目の価値ある受賞です。この受賞をこれからの活動につなげようという前向きな気持ちが伝わってきました。



「感謝」の気持ちを未来につなげる

「感謝」の気持ちは、未来に向かう前向きな気持ちの支えになります。3月7日（木）には「6年生を送る会」があり、1年生から5年生までの子供たちが、1年間、学校のリーダーとして活躍した6年生に感謝の気持ちを伝えます。子供が主役となり、高学年をリーダーとして、子供たちが主体的に学校づくりを進める本校では、1年間を締めくくる大切な行事の一つです。

また、4年生は「二分の一成人式」を行います。毎年、たくさんの保護者の方をお迎えして、育ててくれたことへの感謝と将来に向けての決意を発表します。子供たちは事前の学習を通して、保護者の方に伝える言葉を吟味し、伝え方を何度も練習しています。子供たちの10年間の成長を確かめ合い、喜び合う場に立ち会うことを楽しみにしています。また、6年生も保護者の方をお迎えし、「感謝の集い」を行います。6年間支えてくださった保護者の皆さんに歌や二松ソーランを通して感謝の気持ちを伝えます。

3月は「感謝」という言葉を意識して生活をします。これまで自分のよさを認め、応援してくれたたくさんの人の存在に気付く（感）とともに、その思いを言葉にしたり行動に表したりする（謝）ことができるようにします。そして、その気持ちが新しい年度に向かう意欲や新しい目標につながるよう指導します。